

Letter from Copenhagen

コペンハーゲン通信 Part II 2

IOC総会会場のペラ・センター。
12月にはここがCOP15の会場になります。

デンマーク王国 DATA

人口551万人(≒北海道)、面積4.3万平方キロ(≒九州)、欧州最古の王室を有する立憲君主国。「国際競争力5位(WEF)」「世界一幸福度の高い国」「環境・デザイン・福祉先進国」として知られ、アンデルセン童話、食器・家具・知育玩具などのブランドは日本でも有名。



当会事務局職員が、2007年1月より在デンマーク日本大使館に出向しています。国際競争力や人々の幸福度で高い評価を受けるデンマークからの現地報告を不定期にお届けします。

オリンピック招致の舞台裏



樋口 麻紀子

在デンマーク日本大使館一等書記官
(経済同友会事務局より出向中)

「シカゴ!」。鳩山総理を乗せた政府専用機がコペンハーゲン空港を飛び立って数時間後、少し落ち着きつつあった事務局部屋がどよめきました。2016年オリンピック・パラリンピック開催地を決める第一回目の投票、四都市のうち最初に落選したのは意外なことにシカゴでした。

オリンピック・パラリンピック招致活動に現職総理がやってくる。しかもその決定は、ご到着わずか3日前。外務省のベテランをもって「未曾有の事態」と言わしめる状況に現場は昼夜を問わずフル回転。私はといえばホテル内の作業室に缶詰状態になりながらも、2日朝には作業の合間にIOC総会会場からの中継に見入っていました。最初のプレゼンテーションはシカゴ。オバマ大統領夫妻の熱いアピールで締めくくり、次はいよいよ東京のプレゼンテーションです。

その時、突然デンマーク国営テレビの中継が切り替わりました。インターネット中継やBBCでは東京のプレゼンテーションが続いていますが、現地TV局が映していたのは、IOC総会会場を去り、女王陛下との会見に向かうオバマ大統領を乗せた長い車列でした。

デンマークは1973年と早い段階でEUに加盟していますが、外交上は一貫して米国重視の姿勢を貫いています。当地での生活が長い日本人の方によると、歴史的な近隣諸国との領土争い、第二次世界大戦時のナチス・ドイツによる占領経験等から、「欧州」に全面的に頼ることなく、もう一つの軸足として米国との関係を重視してきたとのこと。ある意味、小国故の安全策と言えるのでしょうか。NATO事務総長に就任したラスムセン前首相も一貫して米国の「テロとの闘い」を支持する立場を取り、その姿勢は現政権にも引き継がれているようです。

しかしながら、IOC総会という国際的イベントに際

して、そのことを再認識することになろうとは思いませんでした。オバマ大統領の到着から出発までのさまざまな映像を繰り返し流し続けるメディアと、コペンハーゲン市民の歓迎ぶりを目の当たりしていた私たちにとって、シカゴ落選は実に驚異的な出来事だったのです。

さて、東京の落選は残念でしたが、一方で今回の招致活動を機に、将来に向けて多くの種がまかれたように感じています。幅広い日本の方々に、コペンハーゲンという、決して目立たないけれど、魅力ある都市を見ていただいたということ。同時に、オリンピック招致に盛り上がるさまざまな日本人の姿が世界中に発信されたこと。都市発の気候変動問題への解決策の提示等、「Tokyo 2016」のビジョンに共感が寄せられたこと。そして個人的には「東京のプレゼンテーションは素晴らしかった」「東京に勝ってほしかった」と声をかけてくれるデンマークの方々と触れ合うことができ、日本・東京にどのようなイメージをお持ちいただいているかを垣間見ることができたこと。

2009年10月のコペンハーゲンでの敗北に近い将来どのような実を結ぶことになるのか、半分は負け惜しみ半分は本音で、とても楽しみにしています。



10月1日、2日にさまざまなPR活動の舞台となった市庁舎前広場。リオの勝利から一夜明け、イベント用の機材が撤収されて、いつもの表情に。